

環境道民会議の今後の 方向性について

北海道環境生活部環境保全局環境政策課
環境道民会議企画委員会

環境道民会議とは

【趣旨・目的】

北海道の良好な環境を保全し、快適な環境を維持・創造することにより、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な環境重視型の社会をつくることをめざして、道民、事業者及び行政が相互の連携の下で、環境保全活動を積極的に推進するため、1998年9月に「環境道民会議」を設置。

⇒今年で設立25周年

【活動内容】

- 1 各参加団体による活動の実践
- 2 実践活動に係る情報交換・交流
- 3 普及啓発事業の実施

【参加団体】

自主的、積極的、全道的に環境保全活動に取り組む事業者団体、
民間活動団体、住民団体、行政など 計65団体

環境行動宣言

さわやかな空、清らかな水、みどりあふれる大地、そこに息づく様々な生命の輝き
私たちは、北海道の豊かな自然の恵みを受けながら生活を営み、北国の風土を生かした個性ある文化を育んできました。

私たちは、このかけがえのない北海道の環境を、道民みんなで手を携えながら、より良いものへと発展させ、次の世代に引き継いでいかななくてはなりません。

今日の環境問題は、廃棄物の処理や地球温暖化などに見られるように、私たちの日常の生活の様々な活動と関連しており、これらを解決するためには、一人ひとりが、できるところから行動を起こすことがとても大切です。

私たち環境道民会議は、様々な立場から積極的に環境保全活動に取り組むとともに、情報交換や交流を通して連携し、活発な活動の輪を大きく広げ、より良い環境を未来に引き継ぐ環境重視型の社会～環境にやさしい北海道～を目指して行動することを宣言します。

平成10年9月5日 環境道民会議

行動指針

私たちは、このかけがえのない北海道の環境をしっかりと守り、より良いものとして将来の世代に引き継いでいくために、循環と共生を基調とする持続可能な北海道を目指して、家庭や職場、地域において、環境に配慮した事業活動やライフスタイルの確立に取り組みます。

1 地球環境の保全

私たちは、地球温暖化の防止に向けて、温室効果ガスの排出量の削減をすすめます。

このため、日常生活や事業活動において、省エネルギーの取組や新エネルギーの利用などを進めるとともに、二酸化炭素を吸収する海・森林などの自然環境を守り・育てます。

2 3Rの推進

私たちは、限りある資源を大切にし、廃棄物等の処理に由来する環境負荷の低減をすすめます。

このため、資源投入、生産、流通、販売、消費、排出、処理・処分などの各段階において、3R（リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再利用））に取り組みます。

3 自然との共生

私たちは、自然との共生を基本として、自然環境の保全をすすめます。

このため、自然のすばらしさを理解し、きれいな空気、水、多様な野生生物など豊かな自然環境を守るとともに、みどりや水辺など、身近な自然とのふれあいつくりに取り組みます。

環境道民会議の今後の方向性の検討について

【経緯】

- ・本会議が創立25周年を迎えるにあたり、今後の環境道民会議の取組の方向性についてR4年度から検討を開始。
- ・参加団体へのアンケートやヒアリングも実施しながら、企画委員会で検討を行った。

年度	開催日	会議名	内 容
R4	6月3日	第1回企画委員会	・検討スケジュール及びアンケート案の提示 ・委員からの意見聞き取り
	7月19日	第25回総会	検討経緯の説明、出席団体からの意見聞き取り
	7月29日		「環境道民会議の今後を検討するためのアンケート」実施
	9月15日 ～10月7日		7団体に上記アンケートの追加ヒアリングを実施
	10月21日	第2回企画委員会	今後の見直しの方向性について議論
	2月10日	第3回企画委員会	今後の見直しの方向性について議論
R5	4月26日		第3回企画委員会での意見をもとに、「環境道民会議の今後の見直しの方向性について（案）」を企画委員に照会
	5月25日	第1回企画委員会	上記照会に対する意見をもとに、「環境道民会議の今後の見直しの方向性について」を決定

現状の環境道民会議の主な課題

これまでのアンケート・ヒアリング及び企画委員会での議論を通じ、以下の3点を主な課題として整理。

- ① 参加団体へ参加意義・メリットが伝わっていない
- ② 事務局の情報発信の質・量の不足
- ③ 環境道民会議主催イベント（総会、ウィンターミーティング等）への参加率が低い

※③は①、②及び参加団体内での人員不足にも起因

当面の対応①

課題①…参加団体へ参加意義・メリットが伝わっていない

- 参加意義等の説明 **新たに実施予定**
 - ・各年、参加団体（数団体程度）と意見交換を実施、結果を全参加団体に共有。
 - ・毎年機会を捉えて活動意義等を周知。
- 各団体の環境保全に関する取組の周知共有 **R5年度から実施**
 - ・参加団体が行う環境保全に関する取組を、年度当初に配付する「参加団体概要」に掲載し共有。
(R5:25団体掲載)
 - ・オンラインパネル展で、参加団体の希望により、自らPRを行うパネル展示も行うなど、より多くの団体のパネル掲示を目指す。
(パネル掲載 R4…5団体⇒R5…10団体)

当面の対応②

課題②…事務局の情報発信の質・量の不足

- ・参加団体あてに周知したイベント等の情報を道HPへ蓄積。 **R5年度から実施**

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk/kankyodouminkaigievent.html>

- ・参加団体主催のイベントは、開催概要を報告していただき参加団体へ共有。

R5年度から実施

- ・「環境☆ナビ北海道（※）」のイベントカレンダーページの活用の呼びかけ。

[継続]

https://enavi-hokkaido.net/event_cal/



(※) 環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）、（公財）北海道環境財団、札幌市環境プラザの3組織によって運営される環境系中間支援組織のコンソーシアム

当面の対応③

課題③…環境道民会議主催イベント（総会、ウィンターミーティング等）への参加率が低い

- 呼びかけの強化 **R5年度から実施**
 - ・参加団体に対し、改めて環境道民会議主催イベントへの出席の依頼を徹底。
 - ・参加団体所属の企業等による参加も可能である旨周知。
- 参加方式の見直し **R5年度から実施**
 - ・総会、ウィンターミーティングに参加できなかった団体に対し、開催動画の視聴とアンケートの提出を依頼。
 - ・開催動画の視聴とアンケートの提出をもって、参加した扱いとする。
- 開催内容の充実 **[継続]**
 - ・事例発表について、参加団体へのアンケートや聞き取り結果を踏まえ、そのニーズに即した取組を紹介。

参加団体の皆様へのごお願い

- 環境道民会議主催イベントへの積極的な参加
- 総会、ウィンターミーティングへ参加できない場合は、開催動画視聴＋アンケートの提出
- その他環境保全に関するイベントへの積極的な参加
- 所属団体・企業や従業員への情報周知
- その他、環境道民会議の取組等への積極的な御意見の提出

御協力よろしく申し上げます。